

沖縄県平和祈念資料館だより



～ 平和発信の技術や経験をカンボジアへ～

沖縄県は、カンボジア内戦からの復興・地雷除去の歴史の伝承を担うカンボジア地雷対策センター（CMAC）の「地雷対策を通じた平和と人間の安全保障の啓発・普及のための博物館づくり」において、住民視点による歴史を記憶し平和を希求する沖縄県平和祈念資料館の理念、取組などを活かした運営スタッフの人材育成や展示物作成の技術協力を、独立行政法人国際協力機構（JICA）の支援の下で特定非営利活動法人沖縄平和協力センター（OPAC）と共に取り組んでいます。

2023（令和5）年11月から人材育成や展示物作成の技術協力を開始し、2024（令和6）年1月15日から2月9日までの約4週間、CMACの研修員4人を迎え、当資料館を中心に沖縄県内での研修（本邦研修）を実施しました。

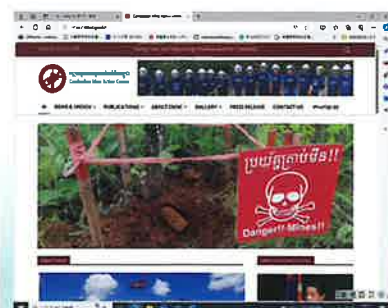
本研修は、カンボジアの平和博物館（Techo Peace Museum）の運営をはじめ、展示、調査研究、教育普及の役割を考え、施設のビジョンを創ることができる人材づくりを目指したものです。研修内容も、沖縄や日本が考える平和博物館づくりの理念や活動、沖縄や広島平和博物館の展示の基本的な考え方をはじめとする展示資料の見せ方や展示演出の考え方など、これまで本県が取り組んできた平和推進事業の経験や蓄積を活かしたものとなりました。また、研修では県内小学校や高校の協力により、県内の子ども達に対して研修員たちによるカンボジアの歴史と平和構築などの講話も行うことができました。

研修の最終日には、本研修の成果発表の一環として、カンボジアの過去の争いの歴史、そして人々が安全・安心の生活ができる国土の回復に尽力してきたCMACの平和創造の活動の歴史について、広く県民に紹介するための写真企画展を当資料館企画展示室において開催いたしました。

カンボジア地雷対策センター（Cambodian Mine Action Centre）とは

カンボジア地雷対策センターは、カンボジアにおける人道的な地雷・不発弾除去を行う公的組織として1992年の設立以来、独自の努力や各国との協力を得て取り組みを続けており、地雷対策の先駆者として、JICA等と協力しながら、今なお地雷被害に苦しむ国々とこれまでに培った知見を共有し、国際的にも高い評価を受けています。近年においては、アンゴラ、コロンビア、ラオス、イラク、ウクライナなどへ技術協力をを行っています。

30年前に紛争を終え、その後も地雷除去を続けてきたカンボジアでは、特に若い世代において紛争の記憶や平和の重要性の認識を語り継ぐことが、紛争を繰り返さないための大きな課題となっています。



カンボジア地雷対策センター(CMAC)への技術支援について



ヘン・ラタナ長官(左から2人目)と握手を交わす玉城知事

沖縄県・CMACの協力開始署名式

2023(令和5)年11月6日、県庁において、沖縄県とカンボジア地雷対策センター(CMAC)との間で協力開始の署名式が行われました。玉城デニー知事とヘン・ラタナCMAC長官がそれぞれ覚書に署名し、協力事業がスタートしました。

沖縄県はこれまでに、2009(平成21)年から6年間、カンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館を対象に、平和構築を促進する「平和博物館」活動(資料保存・展示・教育普及活動)の支援を行ってきた実績があります。

ヘン・ラタナ CMAC 長官の来館

県とCMACの協力開始署名式に先立ち、11月5日にヘン・ラタナ長官と関係者が当資料館に来館されました。ヘン・ラタナ長官は、12年前にも当資料館を視察されています。その際に、「展示物も重要だが、施設を運営する人を育てることが一番重要だと感じた」とのことです。

CMACは、地雷除去活動を通して平和の大切さを伝える「地雷対策平和博物館」を2017年に建設していますが、学芸業務のノウハウを知る職員がおらずメッセージが伝わりにくいという課題を抱えていました。2025年には日本の支援により博物館の建て替えと展示内容の一新を予定しており、沖縄県平和祈念資料館のような平和を希求する心を伝える「平和博物館」にしたいとのニーズを受けて、今回の技術協力が実現しています。



学芸員から説明を受けるヘン・ラタナ長官



CMAC 本部



CMAC 本部での協議風景



本部内の展示室を案内する長官



現在の「地雷対策平和博物館」



対物(対戦車)地雷の展示状況



新博物館建設の構想解説状況

カンボジアへの専門家派遣(当資料館職員2名含む)

2023(令和5)年11月12日～19日の期間に、本協力事業に関わる第1回専門家派遣が行われました。当資料館からは、学芸員1名と主査1名が派遣され、CMAC本部、現在の「地雷対策平和博物館」やトゥール・スレン虐殺博物館などの視察を行いました。現地では、CMACと事業全体の目的、活動内容やゴール、スケジュール等の確認や協議が行われました。

CMAC 職員の本県における研修実施(2024年1月15日～2月9日)



研修員の方々(CMAC職員4名)

2024(令和6)年1月15日、技術協力事業における本邦研修の開講式が当資料館2階の大会議室で行われ、CMACから以下4名の研修員を迎えて研修がスタートしました。

- *チエン センチムさん/サイトマネージャー(右から2人目)
- *シム パンジャさん/インテリアデザイナー(左から2人目)
- *シー エンダラリットさん/インテリアデザイナー(左)
- *ポー マカラさん/データベースと情報管理担当(右)

本県で行われた研修の概要

研修は当資料館を中心行われましたが、沖縄県立博物館・美術館、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館など平和関連施設の視察も行い、研修員たちは、効果的でわかりやすい展示技術や演出方法、平和の大切さを心に訴える情報発信方法などを学びました。

- 【研修概要】
- ・本県の平和創造関連事業の概要
 - ・平和博物館事例研究
 - ・博物館展示づくりの手法
 - ・設置理念づくり
 - ・展示づくり演習
 - ・地域の戦争体験の掘り起こしと平和博物館
 - ・平和教育発信演習
 - ・展示活動演習
 - ・アクションプランの作成及び発表等



学芸員による常設展示室内及び解説



「地雷対策平和博物館」の展示づくり演習



研修員による講話(大里北小学校)



展示用パネル・キャプションづくり

写真企画展「カンボジア王国の平和のあゆみ」(2月7日～2月21日)

研修の成果発表の一環として、研修員たちが作成した写真パネルなどを展示した写真企画展が開催されました。展示は、カンボジアの地理や歴史、国内の地雷や不発弾の埋没状況、地雷の威力や不発弾による事故、CMACが実践する活動などを写真や地図、映像とおして広く県民に紹介するための内容構成となっていました。オープニングセレモニーでは、CMACプロム副長官、研修員代表のパンジャさんも参加してテープカットを行い、展示室内で研修員が展示資料の説明や解説を行いました。

研修員のみなさんは、カンボジアに帰国後も、沖縄の研修で学んだことを活かし、平和の大切さを訴えかける展示を行う博物館づくりに取り組んでいくとのことです。



CMACからプロム副長官(左から3人目)も研修期間中に来沖し開会式に出席



カンボジアの地雷埋没状況を説明する研修員



展示された写真について解説を行う研修員

「平和への思い(ウムイ)」発信・交流・継承事業

共同学習期間 2023 (令和 5) 年 11 月 20 日 (月) ~ 11 月 25 日 (土)

参加者 沖縄・長崎・広島・韓国・台湾・ベトナム・カンボジアの学生と指導者等

本事業では、沖縄県をはじめ、多くの住民が犠牲となった悲惨な戦争体験などを有する韓国、台湾、ベトナム、カンボジア、広島、長崎など、アジア諸国の5ヶ国7地域から35名の学生が沖縄に集い、自国のみならず近隣諸国の歴史や経験を学び、戦争の悲惨さや命と平和の尊さについてあらためて思いを馳せ、史実とそこから得られる教訓を次世代に継承していく方法について検証しました。

今回は、コロナ禍を経て事業開始以来4年ぶりに対面形式による共同学習が実現しました。

オンライン事前学習 (10月28日)

参加者はそれぞれの地域で起きた戦争などについて学ぶ事前研修を経て、沖縄での共同学習に臨みました。参加者たちは各地域の学習テーマについてプレゼンテーション資料を作成し、オンラインで他地域の参加者に向けて発表しました。参加者にとっては、これが初めての顔合わせとなりました。

【学習テーマ】 (日本) ・ 沖縄県…沖縄戦 ・ 広島県…広島における原爆投下 ・ 長崎県…長崎における原爆投下
 (アジア諸国) ・ 韓国…済州島 4.3 事件 ・ 台湾…2.28 事件 ・ ベトナム…ベトナム戦争
 ・ カンボジア…カンボジア大虐殺(ポル・ポト政権下の虐殺)

共同学習の主な日程

11/20(月)	開会式、チームビルディング・ワークショップ等
11/21(火)	【講義】沖縄戦について 【講話】「沖縄戦の体験」 【視察】沖縄県平和祈念資料館、平和の礎
11/22(水)	【視察】糸数アブラガマ、首里城公園、 第 32 軍 司令部壕跡
11/23(木)	【視察】嘉数高台公園 【交流】宜野湾市平和大使 との意見交換 【交流】過去の参加者との交流
11/24(金)	ディスカッション、シンポジウムの準備
11/25(土)	成果報告会「シンポジウム あしたのアジア」、閉会式



チームビルディング・ワークショップ



戦争体験者(上原美智子さん)による講話



平和祈念資料館で戦争体験証言を読む参加者



糸数アブラガマの視察



第 32 軍 司令部壕跡の視察



嘉数高台公園視察と宜野湾市平和大使との意見交換



過去の事業参加者とのオンラインによるディスカッション



シンポジウム「あしたのアジア」



発表を行う沖縄県の参加者チーム



参加された皆さんは、国籍や言語、文化の違いを超え、万人の願いである「平和への思い(ウムイ)」を胸に、一人ひとりが「平和への架け橋」として世界平和の実現に向け、積極的に取り組もうという熱意にあふれていました。今回の 35 名を含め、本事業にはこれまでに 158 名の学生の皆さんが参加しています。参加された皆さんの中には、かつての琉球王国のような「万国津梁の精神」が、心に息づいているものと期待を寄せています。

参加者された
皆さんの
「平和への思い」



- * 過去の問題を「歴史」として捉えずに現在と結びつけて考えることや、現在起きている問題についてその地域・国だけに問題を押し付けるのではなく、国やアジア全体の問題として考えることの大切さを学びました。(沖縄)
- * 周りの人たちに少しでもいいから平和の大切さを言葉で、心で伝えようと思う。そのためには物事に興味・関心を持つこと、そして貪欲に学ぶことを辞めないでこれまで以上に頑張ろうと心に決めた。(広島)
- * 一部の人が平和を追い求めるだけでは世の中が変わることは難しいと思います。そのため、多くの人が平和への思いを抱くことが大切だと感じました。(長崎)
- * 私たちは、戦後であるという意識を固定化させる制度、教育、メディアを見つめ、平和的かつ積極的に批判する眼が必要だと考えています。(韓国)
- * 台湾の平和、さらに東アジアの平和は、ある程度このような沖縄の人々の平和でない日常に成り立っています。だからこそ基地問題は沖縄だけの問題、日本だけの問題ではなく、アジア全体の問題です。(台湾)
- * 異なる国々の歴史や文化に触れることで、平和の意味が多様であること理解しました。交流を通じて、各国が抱える課題や価値観の違いに敬意を払いながら、共通の目標である平和の追及に向けて協力する重要性を再認識しました。(ベトナム)
- * 平和は私たちが始まります。互いに温かく微笑み合ひましょう。(カンボジア)

・ 沖縄県平和祈念資料館に来館された方々 (2023年10月～2024年2月) ・

JICA 研修員の来館 (10月12日)

JICA「日系社会研修員受入事業」により、研修プログラムを受講している研修員の皆さんが来館されました。当資料館では学芸班職員による講話を実施しました。



駐日フィリピン大使来館 (10月27日)

ミレーン・デ・ホヤ・ガルシアールバノ駐日フィリピン大使、ヴァルテール D. マウリシオ在大阪フィリピン総領事、他関係者3名が当資料館へ来館されました。



広島市議会議員団行政視察 (11月16日)

広島市議会議員団11名が、視察のため来館されました。前川館長による平和推進事業の説明及び学芸班職員による常設展示室案内を行いました。



大学連携事業：沖縄国際大学 (1月31日)

当資料館では県内大学との連携事業を実施しており、今年度は沖縄国際大学の宮城教授、博物館学芸員資格取得を目指す大学生約20名が来館されました。



福島県「雪だるま親善大使」来館 (2月15日)

沖縄県と福島県との交流事業により、「雪だるま親善大使」(小学6年生2名)及び関係者が、平和学習のため当資料館及び平和祈念公園を訪問されました。学芸班職員による平和講話・フィールドワークを実施しました。



～沖縄戦とバスク系アメリカ人～ 研究者ペドロ・オイアルサバル博士来館

12月5日、フランスとスペインにまたがるバスク地方をルーツにもつバスク人の移民の研究者で、自身もバスク人のペドロ・オイアルサバル博士が来館されました。

博士の研究によると、沖縄戦にはバスク系アメリカ人兵士約20名が派遣され、6名が亡くなっているとのこと。ペドロ博士は、「平和の礎」前において、戦死した6名の名前の読み上げ、献花を行って追悼しました。現在、彼らの名前は平和の礎に刻銘されていないため、博士は「必要な資料を集めて県に刻銘の申請をしたい」と話していました。



博士の友人で通訳も兼ねて同行された琉球大学名誉教授の金城宏幸氏によると、バスク地方には沖縄と同様に独自の言語や文化があり、バスク人は各地に移住して根付き、強いネットワークを維持しているという県系移民との類似点もあるとのこと。

・ 各種展示会開催報告 (2023年10月～2024年3月) ・

(1) 令和5年度 特別企画展「沖縄島北部の戦争遺跡・跡地」

会期 2023 (令和5) 年10月13日 (金)
～ 2024 (令和6) 年1月24日 (水)

今回の特別企画展は、沖縄島北部に分布する戦争遺跡・跡地(伊平屋・伊是名・伊江島などの離島を除く)をテーマに、①沖縄戦以前の戦争遺跡、②沖縄戦の戦争遺跡、③その他の戦争遺跡・跡地、④戦争遺跡の現状の4部構成で、写真・パネルなどを中心に紹介しました。



観覧者アンケートより

現在の残る「遺跡」を扱うことで、戦争は「過去のものでは決して無く、現在の地続きであるということ」を理解させることができると感じました。(県外：大学生20代)

北部地域にこれだけの戦争に関する遺跡があることにびっくりしました。戦争遺跡が開発などで失われていたり、ゴミの不法投棄があったりという現状も教えていただきました。なんとか後世に残すことができればいいのですが…。いい展示、ありがとうございました。(県内：一般40代)

(2) 令和5年度 第2回ギャラリー展「戦禍と獅子展」

会期 2023 (令和5) 年12月20日 (水)
～ 2024 (令和6) 年3月14日 (木)

沖縄戦では、戦闘により人的被害だけでなく、貴重な文化財や沖縄では古くから地域の火よけや魔除け、墓の守り神として設置され親しまれてきた獅子も、沖縄戦による被害を受けました。

今回のギャラリー展では、沖縄戦の戦禍を受けつつ現在も姿を残すいくつかの獅子について、写真を交えて紹介しました。



(3) 令和5年度 第3回子ども・プロセス企画展「戦争と人びとの暮らし」

会期 2023 (令和5) 年10月19日 (木)
～ 2024 (令和6) 年3月3日 (日)

今回の企画展では、満州事変から太平洋戦争終結までの約15年間を中心に、国民の生活がどのように変化したのかを様々な面から展示しました。また、戦争によって日本各地が壊滅的な被害を受けたことや、日本がアジアの各地に大きな被害を与えたことなどについても取り上げました。



・ 八重山平和祈念館 展示会開催報告 ・

(1) 令和5年度 2月企画展「強制疎開 一八重山と小笠原・硫黄島」

会期 2024 (令和6) 年2月1日 (木)～3月3日 (日)

今回の企画展は「強制疎開」をテーマに、同じく「強制疎開」があった地域として小笠原群島・硫黄列島を取り上げました。小笠原群島・硫黄列島では、島民の本土疎開が行われ、終戦後も米軍が島を基地化したことで、大多数の島民の帰還は認められませんでした。

小笠原群島では日本に返還される1968年まで大多数の島民の帰島が認められず、硫黄島においては、軍事利用が継続しているため、いまだに島民の帰島は実現していません。小笠原群島・硫黄列島の強制疎開から80年の節目となる今年、同じ強制疎開を経験したこの八重山で、2つの地域から「強制疎開」について考える企画展を開催いたしました。



2023(令和5)年度 企画展「新収蔵品展 ―令和3・4年度寄贈資料―」

期間 2024(令和6)年3月1日(金)～6月10日(月)

場所 沖縄県平和祈念資料館1階 企画展示室

沖縄県平和祈念資料館では、開館以来多くの資料を御寄贈いただいています。これらの資料は、企画展の展示資料などの平和教育に活用する他、収蔵品展を開催して一般公開してきました。

今回の「新収蔵品展」では、令和3年度から令和4年度の2年間に、8名の皆様から御寄贈いただいた貴重な資料を展示しています。展示資料には、戦時体制下の沖縄に関する資料や糸満市で発見された迫撃砲、収容所で使用されたメリケン粉袋、戦後の交通ルールの変更「730(ナナサンマル)」に関する資料などがあり、どれも沖縄戦の実相や沖縄が歩んできた歴史を知る上で貴重な資料です。

【主な展示資料】 * 沖縄戦関係資料 * 荒井退造氏関係資料
* 軍隊関係資料 * 730(ナナサンマル)関係資料



2023(令和5)年度 第4回 子ども・プロセス企画展「太平洋戦争と南洋群島 ―日本に支配された南の島々―」

期間 2024(令和6)年3月8日(金)～5月19日(日)

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

日本は、明治から昭和にかけて日清戦争、日露戦争といくつもの戦争を行ない、台湾や朝鮮半島を日本の支配下におきました。日本の南に広がる南洋群島も、第一次世界大戦に参戦した結果、国際連盟から委任統治が認められました。日本は、経済発展を進めるために南洋群島を開発し、沖縄県からも多くの人々が移民しました。しかし、太平洋戦争が起ると南洋群島の各地は激しい戦場となりました。

今回の企画展では、南洋群島の歴史や沖縄県からの移民の暮らしの様子、そして戦争の被害の実態について展示します。戦争がはじまると、一般住民が悲惨な被害を受けるという歴史的教訓を、展示を通して理解を深める機会とします。

【主な展示資料】 * 実物資料(南洋群島の写真帳、三線、投降勧告ビラ、学力優秀賞、アサヒグラフ、写真週報、裏南洋航路案内) * 米軍記録写真



戦後の証言映像「世替わりを生きて」多言語版WEB公開

当資料館ホームページから公開している戦後の証言映像「世替わりを生きて」(日本語版 20名分)の証言映像を、今年度は4つの言語に翻訳して公開しました。英語、中国語、韓国語、スペイン語でご覧いただけます。

他にも「戦世の記憶」(70名分)と「戦世からのあゆみ」(30名分)は、日本語 +7言語(英、中、韓、西、独、仏、マレー)で公開中です。



Free Wi-Fi設置のお知らせ

本県が進める情報通信基盤の整備強化により、1階の企画展示室前にFree Wi-Fiが設置され、来館された皆様にご利用いただけるようになりました。

ご利用方法については、設置場所周辺の掲示や「Be.Okinawa Free Wi-Fi」に接続してご確認ください。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.okinawa.jp>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
Email webmaster@peace-museum.okinawa.jp

